

日本新聞製作技術懇話会
広報委員会編集

編集人 下平 泰生
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>

CONPT

CONFERENCE FOR NEWSPAPER
PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.44 No.3
2020.5.1
(通巻 261 号)

日本新聞製作技術懇話会
会 報 (隔月刊)
(禁転載)



CONPTは創立45周年を迎えました

日本新聞製作技術懇話会(CONPT-JAPAN)は今年5月に創立45周年を迎えました。

1975年5月、新聞製作技術の発展に対する期待の高まりを受け、JANPS(新聞製作技術展)の出展企業が母体となって発足して以来、新聞界に貢献するために活動を続けて

まいりました。

本号では、木船正彦CONPT会長のご挨拶と日本新聞協会技術委員会の三宅直人委員長、上坂義明CONPT前会長両氏からいただいた寄稿、CONPTのこの5年間の活動で特集誌面を構成しました。

目次

CONPT45周年の決意	日本新聞製作技術懇話会 会長	木船 正彦	3
寄稿	一般社団法人日本新聞協会技術委員会 委員長	三宅 直人	4
寄稿	日本新聞製作技術懇話会 前会長	上坂 義明	5
CONPTの歩み 2015～2020			6
新局長に就任して	熊本日日新聞社 印刷局長	稲生 秀幸	9
	上毛新聞社 印刷局長	石田 省平	9
	山陽新聞社 執行役員印刷局長	高田 洋	10
楽事万歳	(株)イワタ 代表取締役社長	水野 昭	12
わが職場あれこれ	(株)京都新聞印刷 印刷局次長兼技術管理部長	竹島 正明	13
美味あっちこっち	富士グローバルグラフィックシステムズ(株) 新聞営業部販売一課	宇賀神 魁斗	13
会員名簿			14

●表紙写真提供：CONPT-TOUR2019 入選作より 第一工業 若生 直人氏「やっぱりウィーンはモーツァルト」

●表紙製版：(株)デイリースポーツ

●組版・印刷：(株)デイリースポーツ

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止へ向けたさまざまな対策がとられています。
小誌の発行に遅滞の生ずる場合もあります。ご了承のほど、お願い申し上げます

日本新聞製作技術懇話会 会長

木船 正彦

日本新聞製作技術懇話会(Conference for Newspaper Production Technique-Japan、以下CONPT)は、日本全国の新聞社と力を合わせて新聞製作技術の改善・向上を図る目的で、1975年(昭和50年)に設立されました。そして、今年(2020年)の5月、CONPTは45周年を迎えました。

今日、新聞製作技術は、DX(デジタルトランスフォーメーション)化のトレンドが強まるなか、上流系、下流系、



そこで、これらのコスト削減、労務難を長期的に解決し、克服する技術は何でしょうか？それは、IT技術やAI技術を活用した自動化、省力化、省人化を推進する技術革新であろうと確信しています。現在、日本の新聞社の新聞印刷、発送業務部門を、IT技術やAI技術を活用した自動化、省力化、省人化を推進することにより、そこに従事しておられる人員の一部が配達業務部門にシフトされ、新聞配達以外のビジネスを開拓、推進してゆく、といったことが期待されます。

さらに、新聞社全体のDXが進展してゆけば編集部門もより効率化され、次第に編集コスト削減の効果が表れてくるでしょう。印刷部門・発送部門は、最終的にAIが制御・統

技術革新の使命、新たな地平へ

資材系を問わず、IT技術やAI技術を活用した自動化、省力化、省人化を推進する技術革新が求められています。

現在の日本の新聞印刷は、オフセット印刷が主流となった2000年代初頭以降、印刷紙面品質や生産力と、機器導入コスト・保守コストとの対比、即ち、コストパフォーマンスは著しく改善しています。

2000年以降の約20年間を振り返ると、新聞協会の統計によれば、新聞発行部数は30%近く減少し、日本の新聞社の経営を支える新聞販売収入、広告収入は、ともにその新聞発行部数の減少率以上に減少しています。日本の新聞社の経営はさらに一層厳しさを増しているという状況です。即ち、一層の徹底した経営コスト削減が求められているわけです。また、日本全国の新聞社の新聞印刷、発送、配達業務にかかわる労務難は一層深刻化しています。

制する無人化へと向かい、現在その部門に費やされている人件費は極限的に低減し、その部門の人材不足も抜本的に解決されることが期待されます。

さて、CONPT設立45周年を迎え、現在CONPTの組織を法人化することを検討しています。現在のCONPTは加盟42社、上流系、下流系、資材系の著名企業も含め多数参画しています。クラブ委員会、企画委員会、広報委員会の各委員会活動に加え、新聞社各社との技術的な対話もこれまで進めて参りました。既に任意団体としての活動領域等を超えており、一定の社会的認知がなされております。新法人としてどのような新しい活動をしていくか、また、法人の名称をどうするか等々、皆様のお考えを伺いたいと思っています。会員各社のご協力を得て、CONPTの社会的使命を果たして参りたいと願うところで

一般社団法人日本新聞協会 技術委員会委員長
(毎日新聞社 執行役員 制作技術本部長)

三宅 直人

ついに「緊急事態宣言」まで出て、新型コロナウイルスの影響はとどまるところを知りません。社会不安が広がる今こそ、正確なニュースが必要です。新聞協会加盟各社では、社員や関係者の健康維持に最大限の対応をしつつ、新聞発行の継続やウェブサイトでの情報発信に力を入れています。

在宅勤務推進のため



だから制作技術部門に異動しても、(専門的知識の欠如を横に置けば)比較的すんなり溶け込むことができました。しかし、生粋の技術者がメーカーやベンダーの苦労をよく知り「同志」的な立場で接するのは異なり、私は「ユーザーの視点からもの申す」姿勢が抜けません。CONPTのみなさんに圧力を感じさせているのでは、と自省します。

製品を開発し販売する側と、それを使って報道に当たる側。立場も見方も違うのは当然です。でも、決して敵と味方ではなく、新聞やウェブという共通の土俵に立ち、ちょっとキザに言えば、世の中をよくするために働く仲間だと思っています。

私の好きな歌に、サイモン&ガーファンク

明日に架ける橋

にモバイルPCを増やしてネットワークを強化したり、組版や画像処理の端末を別の拠点に展開して社内感染者の出現に備えたり、さらなる事態の悪化に備えて印刷や輸送体制の再編・見直しを検討したり……。勝手の違うテレワーク環境の中、ふだん以上の仕事が押し寄せています。

こんな時、頼りになるのが日本新聞製作技術懇話会(CONPT)のみなさんです。「急な機器増設に対応して」「予定していた工期を見直したい」「テレワーク関連で提案を」——あれこれの要望に親身になって対応いただき、本当に感謝しています。

私は、今は制作技術部門に籍を置けていますが、元々は編集の出身です。ただ、隣接職場とも言える整理部の経験が長かったので、ユーザーの立場から組版端末に接したり、選挙や五輪対応で印刷バンドの組み替えに口を出したりしてきました。

ルの「明日に架ける橋」があります。原題が「Bridge over Troubled Water (逆巻く水に架ける橋)」。疲れ、つらい思いをしている人に「そばにいるよ、逆巻く水に架ける橋のように」と語りかける、そんな歌です。

新聞業界は、メディア環境が大きく変わる中で、さまざまな困難に見舞われています。加えて、新型コロナの影響で経済環境が悪化し、社会全般も、業界の姿も、うまく明日が見えません。そんな時期だからこそ、「明日に架ける橋」が胸に迫ってきます。

CONPT45周年、まことにおめでとうございます。そして新聞業界に長年ご尽力いただき、ありがとうございます。これからも仲間として「逆巻く水に架ける橋のように」私たちを激励していただきたいと願います。この歌の末尾に「Time has come to shine (今こそ輝く時)」という一節があります。手を携えて、ともに輝きましょう。

日本新聞製作技術懇話会 前会長

上坂 義明

日本新聞製作技術懇話会(CONPT)の創立45周年、心よりお慶び申し上げます。

この間の新聞界の大きな変革にCONPTの成された功績は多大なものであったと思います。

会員各社の技術力、知恵、工夫、アイデアが新聞製作技術の歴史を築き上げてこられたと思います。

今、新聞ビジネスは大変厳しい環境を迎え



めざす展示会は当時世界一の新聞技術展、米国アトランタで開くNEXPO'95。テーマは`Putting the Future in Focus、(未来に焦点を合わせて)でした。参加者は吉田陸雄さん(北海道新聞)、北井良彦さん(産経新聞)、小野澤亮二さん(神奈川新聞)他総勢67名。6月14日に成田を出発して、まずヨーロッパへ。フランクフルト⇒ストックホルム⇒ロンドン⇒ニューヨーク、そして12日目にやっとアトランタ到着。その時はもう疲労困憊(ばい)で展示会場には半日しか行けませんでした。

今も吉田さん、伊藤弘幸さん(椿本興業)、程島英雄さん(フェラーグ)を中心にお付き合いは続いております。程島さんは得意の英語で現地工場視察の通訳をされていました。不

今こそ技術力、英知を結集の時

ております。発行部数は3700万部強(2019年、日本新聞協会)にまで減少し、新聞そのものの在り方が大きな局面に近づいております。今こそCONPT会員42社の技術力、知恵、工夫、アイデアと新聞社の幅広い英知、奥深い底力を結集し、新たな拡張戦略、新たな収益源を生み出していきたいと願うばかりです。

CONPTでの思い出は大小いっぱいあります。1995年のCONPT・TOURに初参加した時のことです。その頃はまだCONPTの活動そのものをあまり理解していませんでした。上司から参加を伝えられ、英語もできず海外出張の経験も少なかった私は大変緊張していました。ある日、上司が「君に技術報告は期待していない。一緒に行く方々と親交を深めてきなさい」……複雑な心境でしたが、今思えばその優しい一言で前向きにツアーに参加できたと思います。

思議だったのは、外国人技術者の30秒の説明を程島さんは5秒以内に日本語にしまうことでした。英語のできない私は不信感を抱いておりました。今振り返ってみますと、大変簡潔でわかりやすい名通訳だったと思います。

18日間のツアーで多くの方々とその後も親交を深めることができました。

2001年のツアーで一緒した田口慎一さん(中日新聞)、高田良一さん(朝日新聞)、蒲生秀三郎さん(富士写真フイルム)他皆様とも毎年同窓会を行っています。

CONPTの活動を通じ、多くを学び、多くの方々と出会うことができました。それはその後の私の人生の財産となっております。本当にありがとうございます。

最後に、大変厳しい環境だとは思いますが、会員各社の力を結集されCONPTの新たな御活躍、御発展をお祈り申し上げます。

CONPTの歩み

2015～2020

◇2015年(平成27) 会員社40社

- 1.9 新聞製作人新年合同名刺交換会(第33回)=320名
- 2.20 国内研修会(第39回)信濃毎日新聞社・塩尻製作センター見学=25名
- 3.6 CONPT技術研究会(第3回)「トップランナーモーター」=58名
- 5.15 定時総会(第41回)=会員32社44名、来賓1氏。会長に上坂義明氏(サカタインクス)を選出。引き続き創立40周年記念パーティー=162名
- 6.12 技術懇談会(第115回)新潟日報社・メディアポートとメディアシップ見学=24名
- 7.22 JANPS2015(第22回新聞製作技術展)。テーマ「未来につなぐ新聞技術-今より明日へ」、49社・団体出展、入場者総数11,328人。



- ・JANPS懇親会(新聞社72名、会員社他117名)=22日
- ・CONPTツアー合同再会パーティー(第4回、180名)=23日

- 10.4 CONPT-TOUR2015。WPE視察(ハンプルク)とヘルシンキ、オスロの新聞社・印刷工場を見学。参加者31名に事務局・添乗員各2名含め総勢35名
- 11.13 技術懇談会(第116回) CONPT-TOUR2015報告会=120名

- 12.11 年末全体会議(第41回)=会員31社34名、来賓3氏。会議の後、前会長の芝則之氏、今総会をもって退任した徳永正裕マネージャー・木村禮コーディネーター両氏への感謝の集いを兼ねた懇親会(来賓、会員社に会友他7人も加えた49名参加)



◇2016年(平成28) 会員社41社

- 1.8 新聞製作人新年合同名刺交換会(第34回)=345名
- 2.25 技術懇談会(第117回)読売新聞仙台工場見学=27名
- 3.11 CONPT技術研究会(第4回)「ウェアラブルデバイス」=42名
- 5.16 定時総会(第42回)=会員35社48名、来賓3氏。引き続き懇親会
- 5.20 CONPT技術研究会(第5回)「音声認識およびその周辺技術」=30名
- 6.2 CONPT-TOUR2016。drupaの視察(デュッセルドルフ)とミラノ、ロンドンで新聞社、印刷工場見学=参加者32名に事務局・添乗員各2名の総勢36名



- 7.22 CONPT-TOUR2016報告会=130名
- 8.30 新聞博物館見学と技術リサーチ会=15社18名に事務局など含め計22名
- 9.15 初の技術対話を九州ブロックで開催

- 9.27 技術懇談会(第118回)中日新聞社のデジタル印刷設備見学=40名
 10.10 IFRA-TOUR2016。WPE視察(ウィーン)とスイス2都市で新聞社、印刷工場を見学=参加者14名に事務局、添乗員加え総勢17名
 10.11 ~15 国内研修会(第40回)東奥日報社・東奥日報印刷センター社見学=20名
 10.28 技術リサーチ会および懇親会=15名
 11.15 技術対話(第2回)北海道ブロック
 11.18 IFRA-TOUR2016報告会=70名
 12.14 年末全体会議(第42回)=32社43名、来賓3氏。引き続き懇親会

◇2017年(平成29) 会員社44社

- 1.11 新聞製作人新年合同名刺交換会(第35回)=342名
 2.22 技術リサーチ会 提案と懇親の夕=12社21名に事務局など含め計25名
 3.24 技術対話(第3回)中部ブロック
 5.19 CONPT技術研究会(第6回)「フォントの新しい流れとその周辺」=49名



- 5.29 定時総会(第43回)=33社46名、来賓2氏。引き続き懇親会
 6.8 技術対話(第4回)東北ブロック
 6.23 技術懇談会(第119回)大分合同新聞社と印刷センター見学=22名
 7.31 ~24 技術リサーチ会
 9.14 技術対話(第5回)九州ブロック
 10.4 CONPT-TOUR2017。IFRA・DCX展視察(ベルリン)とベルリン、ストックホルムの新聞社・印刷工場訪問=参加者25名に事務局、添乗員を加え総勢29名
 11.17 CONPT-TOUR2017報告会=95名

- 11.21 技術懇談会(第120回)中日新聞浜松都田工場見学=32名
 12.13 年末全体会議(第43回)=30社37名、来賓2氏。副会長に木船正彦氏(東京機械製作所)を選出。引き続き懇親会

◇2018年(平成30) 会員社43社

- 1.12 新聞製作人新年合同名刺交換会(第36回)=331名
 2.13 JANPS2018第1回運営委員会。第1回全体会議
 2.28 技術懇談会(第121回)岩手日報制作センター見学=22名
 3.9 CONPT技術研究会(第7回)「AI(人工知能)」=54名
 4.20 技術対話(第6回)中日新聞社
 5.18 CONPT技術研究会(第8回)「AIとWatson」=89名
 5.28 定時総会(第44回)=30社44名、来賓3氏。新会長に木船正彦氏。引き続き懇親会
 6.7 JANPS第1回出展社説明会=71名(出展申し込み51社・団体)
 7.24 技術懇談会(第122回)山陽新聞社・さん太しんぶん館見学=26名



- 8.7 技術対話(第7回)中日新聞社
 9.13 JANPS2018運営委員会。第2回出展社説明会=49社80名
 10.4 CONPT-TOUR2018。IFRA・DCX展(ベルリン)視察とスイス・チューリッヒで大手メディア、独フライブルクと仏アヴェヌス-シュール-エルプで地方紙を訪問=参加27名に事務局、添乗員を加え総勢30名

- 11.28 JANPS2018（第23回新聞製作技術
～30 展）。テーマ「今だからこそ正確な
情報を－読者に届けるテクノロジー」、出展51社・団体、入場者総
数10,100人



- ・ CONPTセミナー
未来の新聞製作技術－技術対話
プロジェクトを通して＝28日
CONPT-TOUR2018報告会＝30
日
- ・ JANPS懇親会（新聞社67名、会
員社他108名）＝28日
- ・ CONPTツアー合同再会パーティ
ー（第5回、208名）＝29日



- 12.17 年末全体会議（第44回）＝27社36
名、来賓3氏。引き続き懇親会

◇2019年（平成31、令和元）会員社42社

- 1.11 新聞製作人新年合同名刺交換会
（第37回）＝320名
- 3.6 技術対話の活動報告と意見交換会
＝10社16名
- 3.8 CONPT技術研究会（第9回）「印刷
工場におけるIoT・AI活用」＝64名
- 3.15 技術懇談会（第123回）福島民報印
刷センター見学＝20名
- 3.18 JANPS意見交換会・懇親会＝42名

- 5.20 定時総会（第45回）＝30社42名、来
賓3氏。引き続き懇親会
- 6.17 技術懇談会（第124回）中日新聞社・
辻町南工場見学＝27名
- 10.3 CONPT-TOUR2019出 発。IFRA・
DCX視察（ベルリン）、ワルシャワ、
グラーツ、ポツダムで新聞社・工
場見学＝参加者26名に事務局、添
乗員を加えた総勢29名
- 10.17 CONPT-TOUR2019帰 国。12日 帰
国の予定だったが、台風19号のた
め首都圏の空港が閉鎖され帰国便
が欠航、フランクフルトに足止め
となっていた
- 10.24 技術懇談会（第125回）神戸新聞播
磨製作センター見学＝20名
- 11.7 技術対話（第8回）中国新聞社
- 11.15 CONPT-TOUR2019報告会＝76名



- 11.20 技術対話（第9回）信濃毎日新聞社
- 12.6 技術対話（第10回）河北新報社
- 12.20 年末全体会議（第45回）＝27社35
名、来賓3氏。引き続き懇親会

◇2020年（令和2） 会員社42社

- 1.10 新聞製作人新年合同名刺交換会
（第38回）＝320名
- 2.17 JANPSを変える－新しいビジョン
を語る会＝21社23名
- 5.21 CONPT45周年

*会員社数は1月1日時点

新局長に就任して

チームワークを大切に

熊本日日新聞社 印刷局長

稲生 秀幸

本社の関連会社に入社したのは1979年(昭和54年)、当時扱っていたのは、ドライヤー付きの東芝製小型商業オフセット輪転機で、4頁フルカラーの定期別刷り特集を週3回、印刷していた。印刷速度は毎時2万部程度、フル部数を刷り上げるのに13時間を要し、2日間で印刷していた。トラブルの時は、朝から夜遅くまで連続運転することも多く大変苦労した。



熊日本社には1988年(昭和63年)に転籍となった。輪転機の大きさに戸惑いながら個性が強い先輩達から厳しく指導され、給紙部から学んだ。サテライト機のダブルエンダー方式印刷(D巻き表裏カラー)では紙通しの複雑さや、印刷中は用紙のテンション変動などで裁ち切り不良紙の回収、選別に迫られた。その後、部数増やモアカラー化で24頁4カラーからハーフデッキを追加して32頁4カラー、32頁8カラーそして40頁16カラー3セット、40頁24カラー1セットの現在の形になった。

＊

2016年(平成28年)4月14日、午後9時26分、熊本地震前震は、本社工場で震度6弱を記録した。停電はなく機械の点検作業をし、大きな被害はなかった。朝刊印刷では余震が続く中、輪転機は停止せず刷了した。16日、午前1時25分、今度は震度6強の巨大な地震(まさかの本震)に襲われた。大きな衝撃と揺れで1・2号館共に停電したため、稼働中の3セットは停止。全員玄関前の駐車場に避難した。揺れ

が収まり30分後に復電し、午前3時から断紙していなかった1セットを重点に復旧作業に取り掛かった。

「もう輪転機は動かないのでは」と誰もが思っていたが、単機での手回しから少しずつ始めた。動作や異常がないことを確認し、4時過ぎに印刷再開できた喜びは忘れられない。部員の中には自主的に出社して作業をする人や、時間外になっても残って作業をしてくれる人もいた。これも余震が収まらない中で出社し、陣頭指揮をとった当時の印刷局長の的確な作業指示とチームワークで乗り越えたと思っている。

3月1日付けで印刷局長に就任して1カ月が過ぎた。新型コロナウイルス対策に追われながら、朝刊印刷開始時間になると、なぜか目覚める生活が続いている。局長として、責任の重さと難しさを痛感しながら、現場も部員も知っている強みを生かして、局の運営をしたいと思っている。

印刷局の今年度安全スローガンは「安全は基本作業の積み重ね 全員参加でゼロ災害」だ。チームワークを大切にし、ゼロ災害で明るい職場を全員参加で進めたい。

働きやすい職場環境を

上毛新聞社 印刷局長

石田 省平

入社以来、多くの時間を編集局で過ごし、うち9年は編集部(整理部)に在籍、最初の5年間はLDPと呼ばれた組版マシンと向き合い紙面レイアウトや見出しと格闘した。仕事が遅かったせいか、担当した面にかかわらず降版のしんがりを務める日も多く、本社敷地内にあった印刷局にプロッター出力



されたフィルムを持ち込むと、先輩局員に「時間を見て仕事しろ」と度々どやされた。当時(1990年代後半)の印刷設備は施設の老朽化が進み、輪転機は騒々しく、そこで働く先輩局員には怖い人も多く、「暗い」「汚い」「怖い」の3K職場のイメージがあった。

2回目の編集部在籍中の2009年(平成21年)、現在の印刷センターが稼働した。内覧で訪れたセンターは、新しい施設に輪転機をはじめ全てに最新の機器が備えられ、それまでの新聞印刷の現場が持つイメージを覆すものだった。フィルムをなくしたダイレクト刷版、AGVをはじめ巻取紙の取り付けなど無人化が進んだ輪転機と周辺機器は全て新鮮だった。一方で本社から遠く離れた地での印刷には不安を感じた。印刷現場のトラブルを知る手だてもなく、何より刷り上がったばかりの新聞を手にして確認できないことは最大の心配事だった。

本社敷地内で印刷していた時は、刷り上がった新聞を手インクが着かないよう慎重に指先でめくり、編集部員だけでなくデスク、報道部員も含め多くの編集局員で確認できた。見出しの文字間違いやカラーカットの色間違いなどに気づき、慌てて印刷局にとって返し、輪転機を止める騒動も1度や2度ではなかった気がする。遠隔地での印刷は不良品を出しはしないかという不安と、誰よりも先に新聞を手でできない寂しさが入り混じったものだった。

*

それから10年。印刷局長を拝命し印刷センター勤務となった。稼働当時、ピカピカだった輪転機と周辺機器は油やインク、紙粉が付着、少々くたびれた感はあるが、局員の日ごろのメンテナンスのおかげで大きなトラブルもなく、きょうも印刷している。怖い印象ばかりだった局員も、当然ながらほとんどが自分より年下となり、強面な感じの者はおらず、真面目でおとなしい若者ばかりだ。

新聞社の印刷職場は、現代の若い人の就労基準からすると厳しい環境にある。油とインクまみれになり、時に労災の危険と隣り合わせの職場は依然「汚い」「危険」である。その上、若い人が最も嫌う土日や深夜勤務は今後も解決しようがない。新聞製作の最終工程を担うため、社内の他部署と比較しても高い使命感が求められる。労働人口減少が進む中、若い人材の確保は、ますます困難が予想される。新局長として働きやすい環境を局員に提供することが責務と考えている。

当面の課題は新型コロナウイルスの感染拡大への対応。印刷センターから感染者を出すわけにはいかない。とは言え、局員個人の行動を制限するわけにもいかず、局員自身の自覚と使命感に頼らざるを得ないのが現状だ。マスクとともに。近隣県の他社と災害時の相互支援協定を結んでいるが、「何があっても自分たちの手で輪転機を回す」という局員一人一人の気概は頼もしい限りだ。

この稿が掲載されるころには、新型コロナウイルス感染拡大の収束に兆しが見え、平穏な日常が戻ることへの希望の光が差していることを切望している。

最終工程の重さ再認識

山陽新聞社 執行役員印刷局長

高田 洋

今年の日本アカデミー賞最優秀作品賞は「新聞記者」に決まりました。政府の闇に女性記者が切り込んでゆくシリアスなストーリーでしたが、新聞業界がクローズアップされたのはうれしいかぎりです。物語の最後で「〇〇機械」のロゴを付けた新聞輪転機の映像が登場し、プレスからガイドロール、三角板、折り機からキャリアで運び出されるシー



ンが流れ、新聞輪転機の迫力を改めて感じました。読者に新聞を届ける、この最終工程の重要性を再認識するとともに、改めて印刷局長の任を非常に重たく受け止めています。私は入社当初2年半ほど印刷経験がありますが、30年以上前の話ですので、最新鋭の電子機器輪転機については素人同然です。先般起きた輪転機トラブルの経緯を幹部会で説明するのに苦慮いたしました。今更ですが、しっかり最終工程を支えるための勉強をしていきたいと思っています。

＊

これまでの社歴に触れますと、印刷部から経理部へ異動となった後は数字との闘いが始まりました。悪戦苦闘の毎日でしたが、当時の経理部に導入されたNECのLANPLAN、LANFILEが面白く非常に役に立ってくれました。今でもワークフローの補助簿として当時私が作ったものが一部使われております（それもどうかと思いますが、先輩思いの後輩に感謝です笑）。販売部数の増加に伴い販売売上、広告売上のピークも経験しました。新聞各社は生産設備導入に非常に力を入れていた時期です。その後にテレビ局へ経理部長職を命じられ出向しました。聞いたこともないステブレ、タイム、スポットなどのテレビ用語の意味も分からないまま、着任直後に放送免許更新の資料作り、2年後から始まるテレビの産業革命とも言えるアナログからデジタル化に向けた資金計画を策案する業務を担当するなかで色々苦労も致しました。今となれば、5年間過ごしたテレビ局での経験も非常に役立っています。その後本社に復帰した平成20年は、広告売上がテレビ・ネットに押され漸減しており、非常に厳しい局面を迎えておりました。私も本社経理部長の立場で、社の厳しい環境からコストカットを目指して予算審議に臨みました。多額の予算を計上する印刷部門の設備、部材、数量などを中心に

チェックをかけて大幅に削減できた時は充実感がありましたが、12年後に逆の立場になるとは思ってもみないことでした。これまでの経験を生かして、予算審議では無駄なものは事前にチェックし経理部門には迷惑を掛けないうつもりです。

一昨年には早島町（岡山県都窪郡）にロール紙をイメージした外観、生産設備、見学施設と三位一体となった業界に誇れる「さん太しんぶん館」も無事完成しました。入館者は今年1月22日に2万人を超えました。新聞離れが進み部数は減少していますが、小学生には記者になって行うミニ新聞づくりが大人気です。これからも小・中学生を中心に新聞の魅力や役割を伝え、また未来の読者を育てていく責任がこの工場にはあります。しっかりNIEの推進に貢献したいと思っています。従前に稼働していた片島工場（倉敷市）と合わせた2工場での印刷体制のなかで、今後様々な方向性を模索していきたいと思っています。

また、印刷局長就任早々に今般の新型コロナ感染対策に対し、経験したことのないリスクマネジメントが問われることになりました。これまでは自然災害を想定してのBCPでしたが、感染症被害に対しては前例がないことなので、災害援助協定の契約についても細部を見直していく必要があると思います。新型コロナウイルスの感染拡大で経済活動の停滞をはじめ、各分野への影響は図りしれないものがあります。東京五輪の開催は一年延期、春の風物詩といわれた選抜高校野球も中止となりました。私もかつて高校球児でしたので、選手の努力を知っているだけに、とても残念です。奇しくも中止が決定されたのは3月11日でしたが、東日本大震災で被災した地区の代表にはこの日が更に忘れられない日になったと思います。新型コロナ感染が終息に向かい、地球規模で皆が元の安定した生活に一刻も早く戻ることを願うばかりです。

楽事万歳

テレワーク奮闘記

(株)イワタ 代表取締役社長

水野 昭

新型コロナウイルス騒動をきっかけに突如導入した我が社のテレワーク。社員はもちろん家庭の受け入れ準備も整わないまま早1カ月半が過ぎた。いやはや、テレワークがこれほど大変だとは思わなかった。仕事を持ち帰るのは随分勝手が違う。いざ机に向うも不思議と身が入らないのだ。長年の通勤で身についた生活リズムのせいか、会社に行かないとスイッチが入らないらしい。仕事に集中できないことがこれほどストレスだとは！

実はストレスを感じているのは本人だけではない。同居している犬にとっても大問題なのだ。いつもリビングの主となっている犬は日中ほとんど寝ているのだが、最近はどうも寝付きも悪くひどく落ち着かないらしい。夕方になるとげっそりした顔で伏せている。しかし、なんだかんだで我が身に鞭を打ちつつ2週間経った頃ようやく軌道に乗ってきた。順応性の低さには我ながら情けない気もするが、不器用ながらも試行錯誤して得た教訓を書き留めておきたい。

第一に日課表を作ること。こんなことをしたのは高校生以来と思うが、何よりこれが効いた。朝起きる時間はもちろん、洗顔、食事、犬の散歩、テレビ、新聞を読む行為に至るまで、通勤時と同様とにかくルーティン化するのだ。忘れてはいけないのが着替え。ジャージなどルーズな格好ではいけない。パジャマのままなどもってのほかだ。まあ偉そうなことを言っても日課を100%こなせることなど滅多にないが、それでも格闘した成果はあったようだ。

恐らく苦勞しているのは我が身だけではある



まい。テレワークしてから1カ月過ぎた頃に社員10人にアンケートを行った。まず仕事の効率について尋ねたところ、8人は「変わらない」または「上がった」との答え。そもそも今回のテレワークについてメリットとデメリットをどう感じているのだろうか。メリットとして出た多数の意見が通勤から解放されたこと。心身共に楽になるだけでなく、通勤に代わって得た時間を家族と過ごしたり、家事に費やせる。次に多かった意見が室温や照明などの環境を気兼ねなく調整できること。逆にデメリットとして多かったのが周囲とのコミュニケーション不足。気軽な相談や雑談などができなくなり、モチベーションが低下しがちになるとのことだ。

会社に求めることとしては、一部の部署で滞っている電子決済化、そしてメールやTV会議以外にチャットなどの通話手段の導入と使い分けのルール化。それから勤務時間の柔軟化を求める声もあった。5時半まで勤務した後に買い物に出ると混雑に出くわしてしまう。ソーシャルディスタンスが求められているご時世でもっともな意見だ。彼らなりの工夫や注意点については、ストレッチなどのこまめな運動のほか、リビングで仕事をしている者からは、仕事が終わったら部屋からパソコンを片付けるという声があった。本人はもちろん、家族に対しても仕事モードを引きずらないための配慮が必要なようだ。

そして今回の騒動が収束した後にテレワークを正式な制度として取り入れて欲しいかどうかについては、全員が取り入れて欲しいとあった。もちろん会社としてサポートすべき物資や決めるべきルールなど課題はあるものの、今回の体験は予想以上に可能性を感じさせてくれた。働き方改革の急先鋒として図らずも名乗り出たテレワークであったが、社員の前向きな気持ちにさらに加速すべく改革していこうと思う。しかし何より今は新型コロナウイルスの騒動が収まり、人々に一日も早く安寧の日々が訪れることを願うばかりである。

わが職場

超高速輪転機に思う

京都新聞印刷 印刷局次長兼技術管理部長 竹島 正明

昨年我社は創刊140年を迎えた。この長い歴史の中で40年間、新聞印刷に携わってきた。鉛版からリジロン版と当時TKS製M-200型輪転機で凸版印刷に汗を流し、初のオフセット化はVBW型サテライト輪転機。その後数々の技術革新を乗り越え、現在のオフセット印刷に至った。

2006年4月に京都新聞印刷が創業。その年の11月に久御山工場(京都府南部)が完成し、48頁24個面カラーのTKSカラートップセンチュリー2セットを導入。テストを重ね2007年3月に世界最速の輪転機(20万速)が稼働を開始した。本社工場(京都市・烏丸丸太町)のリニューアル工事が2008年3月に終了し、同年4月に48頁24個面カラー4セットの印刷体制が確立。

2拠点印刷であったが、本社工場の輪転機が老朽化したことに伴い、久御山工場に建屋を増床し1セット増設。2015年12月に本社工場を閉鎖、久御山工場3セット稼働が始まった。当時は20万速機3セットの稼働で、4セット分の部数を店着時間厳守で印刷するため、超高速印刷能力をフルに発揮していた。しかし昨今の部数減などで現在は常速16万速稼働。トラブルなどで工程遅れが発生するような場合に、超高速の印刷能力は生かされている。

そんな中、2011年4月には京都新聞印刷第一期生が入社。現在では中堅になり、若い社員をけん引している。社員の若返りは喜ばしいことだが、センチュリー機の能力をフルに発揮する機会は少なくなってきた。

今年に入り新型コロナウイルスが経済にも影響を及ぼしている。厳しい業界の情勢は続くが、現役引退までもう一度20万速3セット稼働を見てみたいものだ。

かつ平 (地下鉄・築地駅)

私が紹介するお店は、東京メトロ日比谷線 築地駅から徒歩5分ほどの場所にある「かつ平」というとんかつ屋さんです。

「鬼平犯科帳」などを書いた小説家 池波正太郎が溺愛したとされ、築地でも老舗のお店です。

おすすめはロースかつ定食！ 皿からはみ出さんばかりの大きなカツは、サクサクとした衣と上質な脂身から肉本来の甘みを感じることができます。

テーブルには甘口・辛口のソースと塩、醤油が準備されており、とんかつを様々な味で楽しめます。最初の一切れは何もつけずに食べるのもおすすめです。

このボリュームとこのクオリティーで

美味あつちかつ



サクサクとした衣と上質な脂身

FFGS 宇賀神魁斗

1200円は破格です！！

「かつを食べて、自分にカツを入れる！」

そんな午後への活力となるこのお店には是非足を運んでみてください。

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿 (42社) 2020年5月1日現在

社 名	〒番号	所 在 地	連 絡 先
株イワタ	101-0032	東京都千代田区岩本町3-2-9	03-5820-3161
株インテック	136-8637	東京都江東区新砂1-3-3	03-5665-5097
NECプラットフォームズ(株)	270-1198	千葉県我孫子市日の出1131	04-7185-7722
株加貫ローラ製作所	544-0005	大阪府大阪市生野区中川5-3-13	06-6751-1121
キャノンプロダクションプリンティングシステムズ(株)	108-0075	東京都港区港南2-13-29 キャノン港南ビル	03-6719-9700
株金陽社	136-0082	東京都江東区新木場1-1-1王子木材緑化ビル1F	03-3522-3600
株KKS	555-0011	大阪府大阪市西淀川区竹島4-11-54	06-6471-7771
コダック(同)	140-0002	東京都品川区東品川4-10-13KDX東品川ビル	03-6837-7285
コニカミノルタジャパン(株)	105-0023	東京都港区芝浦1-1-1浜松町ビルディング	03-6311-9061
サカタインクス(株)	112-0004	東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル	03-5689-6666
株システマック	520-2277	滋賀県大津市関津4-772-17	077-536-3131
清水製作(株)	108-0023	東京都港区芝浦3-17-10	03-3451-1261
ストラパック(株)	221-0864	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2800	045-475-7229
西研グラフィックス(株)	842-0031	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田135	0952-52-8634
第一工業(株)	335-0002	埼玉県蕨市塚越7-2-8	048-441-3660
田中電気(株)	101-0021	東京都千代田区外神田1-16-9	03-3253-2816
椿本興業(株)	108-8222	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル30階	03-6718-0151
株椿本チエイン	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階	03-6703-8402
DICグラフィックス(株)	103-8233	東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル	03-6733-5067
東京インキ(株)	114-0002	東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル	03-5902-7625
株東京機械製作所	108-8375	東京都港区三田3-11-36 三田日東ダイビル6F	03-3451-8141
東芝デジタルソリューションズ(株)	212-8585	神奈川県川崎市幸区堀川町72-34 ラゾーナ川崎東芝ビル5階	044-331-1096
東洋インキ(株)	104-8378	東京都中央区京橋2-2-1	03-3272-0721
東洋電機(株)	480-0393	愛知県春日井市神屋町字引沢1-39	0568-88-6401
東和電気工業(株)	104-0032	東京都中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6F	03-6222-5005
ニッカ(株)	174-8642	東京都板橋区前野町2-14-2	03-3558-7861
日本電気(株)	108-8001	東京都港区芝5-7-1 NEC本社ビル	03-3798-4666
日本アイ・ビー・エム(株)	103-0015	東京都中央区日本橋箱崎町19-21	03-6667-1111
日本アグファ・ゲバルト(株)	141-0032	東京都品川区大崎1-6-1 大崎ニューシティビル1号館5階	03-6420-2010
日本新聞インキ(株)	210-0858	神奈川県川崎市川崎区大川町13-8	044-589-3500
日本ボールドウィン(株)	108-0023	東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル11階	03-5418-6121
パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)	224-8539	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地	045-938-1613
株日立産業制御ソリューションズ	110-0006	東京都台東区秋葉原6-1	03-3251-7242
富士通(株)	105-7123	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター	03-6252-2625
富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ(株)	106-0031	東京都港区西麻布2-26-30富士フイルム西麻布ビル	03-6419-0421
富士薬品工業(株)	176-0012	東京都練馬区豊玉北3-14-10	03-3557-6201
方正(株)	112-0004	東京都文京区後楽2-3-19 住友不動産飯田橋ビル4号館8F	03-5803-6600
マンローランドゴスウェブシステムズジャパン(株)	350-1328	埼玉県狭山市広瀬台3-7-4	04-2954-1093
三菱重工機械システム(株)	729-0393	広島県三原市糸崎南1-1-1	0848-67-2068
三菱製紙(株)	130-0026	東京都墨田区両国2-10-14両国シティコア	03-5600-1595
ミューラー・マルチニージャパン(株)	174-0042	東京都板橋区東坂下2-5-14	03-3558-3131
明和ゴム工業(株)	146-0092	東京都大田区下丸子2-27-20	03-3759-4621